



日本庭園内の茶室に向かう



庭園側から見た1階レセプションルーム



スタンドグラス輝く、パイプオルガンにさわれる部屋



ルイ16世時代の様式を再現したチェンバロ

な魅力があります。建物はちょうど国分寺崖線の上に位置し、その斜面を利用した日本庭園になっています。この庭園は随所にスピーカーがわからないように設置されている音楽庭園ともなっています。

松本記念音楽迎賓館のもう一つの魅力は、音楽の博物館でもあることです。珍しい楽器や音響製品、昔の大きなオルゴールから、パイプオルガンやチェンバロなど、貴重で珍しい楽器が取り揃えられています。見学して回るだけでもあつと言う間に時間が過ぎて、話題が尽きません。これらの楽器は、一般の人も仕組みを覗いたり、触れてみるができます。

また、昔の資料を大量に保管した資料室もあります。地階の音楽資料室には、貴重なレコード盤や珍しい書籍などが備えられていて、音楽教育の関係者に多く利用されています。

この館は、松本望夫妻が所有していた個人の居宅でした。松本望氏は昭和13年に、パイオニア株式会社の前身となった福音商会電機製作所を創業し、音響メーカーとしての事業を成し遂げた方です。

夫妻の没後、「居宅を多くの方にご利用いただける施設に」との遺志に従い、財団法人音楽鑑賞教育振興会（現公益財団法人音楽鑑賞振興財団）がご遺族から寄贈を受け、音楽を楽しめる館として開放したのです。

館内には、パイオニアの創業者、松本望氏の工作室も当時のままに保存されています。真ん中の椅子に腰かけて、皆を集めては試行錯誤を繰り返すアイデアを練ったお姿が偲べれます。

また、パイオニア創生期の福音商会電気製作所時代のスピーカー1号機のレプリカなどを置いた展示室もあり、パイオニアの音響製品の歴史を見ることがができます。

館長の横田堯さんは、最初はパイオニアの一般の社員さんでした。若い頃は会社のバスケット部に所属し、埼玉の2部リーグで活躍しました。その後、パイオニアの合唱団を興し、日本フィルや、クルト・マズア指揮のロンドンフィルとサントリーホールで第九を歌ったこともあるという経歴の持ち主です。

このような音楽とのご縁から、平成14年、財団法人音楽鑑賞教育振興会（現公益財団法人音楽鑑賞振興財団）勤務になり、この松本記念音楽迎賓館で働くようになりました。3年前、館長となりました。

横田さんは「音楽迎賓館は格調高いが格式ばっていない。食事やワインを楽しむながら、気軽に活用してほしい。」とおっしゃって、皆さんのお出でをお待ちしています。

国分寺崖線を利用した日本庭園



創業者松本望氏の工作室



パイオニア製品の歴史展示室



TAD スピーカーを中心とする、夢のオーディオルーム



膨大な量の資料を揃えた音楽資料室



スピーカー1号機のレプリカ